

論文の和文要旨

論文題目 DDR と COIN:不確実な収束

氏名 Desmond John Molloy
デスモンド・ジョン・モロイ

要旨

武装解除・動員解除・社会復帰、いわゆる DDR および対テロ対策（COIN）は相互に関連した政策分野である。DDR は COIN における治安回復と経済復興への取組において、戦後復興期の平和構築のための重要な手段となりつつある。現在、過去 20 年におよぶ DDR の経験をふまえ、多くの分析と理論的發展が学術また現場から出されている。COIN は、その理論を毛沢東思想やチェ思想に基づく、いわゆる「人民の勝利」論への対抗策として発展させてきた。つまり「人民の勝利」論に基づく、一般の人々の理解と態度に如何に答えるかという問いから、その理論を発展させてきた。しかしながら現状の COIN の実践は暴動への対応のみに注目している。同じく DDR も「人民の勝利」論への対応の必要性を理論的には認識しているものの、その実践は元戦闘員への対応に限定されている。DDR も対テロ対策も質ではなく量としての指標を重視しており、その期待される成果には至っていない。

本研究では事例、報告書、聞き取りや先行研究を追うことにより DDR 理論と COIN 原則の変遷を追う。これらの分析が示すことは DDR や COIN が、その効果を最大化するには一般の人々の理解や態度が大きく作用するということであった。理論の実践への適応において最も重要な点は、多様なセキュリティ・ジレンマを如何に扱うかということである。この点への配慮なく、一般の人々の理解・協力に基づく「人民の勝利」的な効果は得られない。

そこで本研究では、どのようなセキュリティ・ジレンマが存在し、どのように DDR と COIN の実践に影響を及ぼしているのか？セキュリティ・ジレンマと DDR および COIN との関連のあり方、またセキュリティ・ジレンマへの配慮がない場合の実践への影響を検討する。

DDR および COIN におけるセキュリティ・ジレンマの比較研究は、現状の対応が抱える問題を改善し、人命の尊重、適切な規範の形成、また伝統的および人間の安全保障を実現する新たな解決法を提示するだろう。